

今日は学校の 106 年の歴史を振り返り、市川高校生としての誇りを胸に、決意を新たにする日です。

6月
1日

市川高校 106year 龍膽 ANNIVERSARY 創立記念日

大正 3 年(1914 年) 6 月 1 日

市川大門町立女子実業補習学校として設立される。

昭和 25 年(1950 年) 1 月 1 日

町から県へ移管となり「山梨県立市川高等学校」と改称される。



校章(笹りんどう)の由来

スクールカラー：りんどうの花の青紫色に由来

市川高校の南側には、甲斐源氏発祥の地、平塩の岡があります。この岡に新羅三郎義光の子供、源義清の館跡があります。義光(甲斐源氏)は清和天皇(清和源氏の祖)の六代の末裔で文武両道に秀でていました。この清和源氏の紋所が「笹りんどう」であったと言われ、甲斐源氏もその紋を用いました。本校がこの甲斐源氏発祥の地と同じ丘陵地帯にあったところから校章が「笹りんどう」になりました。



校訓「敬愛自尊」

～いちかわファミリーの精神的支柱～



【意味】

敬愛：他人や生き物すべてに対して尊敬や畏敬の念を持つこと。他人の素晴らしさに気づき、それを讃え尊敬し、この地上の生命あるものすべてを大切に思うこと。

自尊：自分を尊ぶこと。自分の個性、人となり、おかれた立場を重く大切にとらえ、誇りを持って行動すること。

【謂れ】

昭和 32 年(1957 年) 4 月に第 4 代坂本清胤校長先生が、生徒手帳の巻頭に書かれ、昭和 45 年(1970 年)、第 9 代山下穆校長先生が校訓とされました。

昭和 32 年 4 月、県立移管後まもない時代、施設はまだ町立時代の面影を残していました。校訓はまだなく、当時の生徒には、県立高校生としての誇りに欠ける面も見られました。毎日、生徒の顔を見ておられた坂本先生は、何か精神的支柱を生徒たちに与えたい、施設設備面の不備を乗り越えて教育内容、精神面にできる限り力を注いでやりたいという強い気持ちを抱かれました。そこで、ご自分の養父が晩年熱心に提唱され、ご自身も大切にされていたこの言葉を生徒手帳に書かれました。坂本先生は父親の唱道してきた言葉であること、押しつけがましいことは嫌いであることを理由に、自ら職員生徒がこの言葉を愛し、この訓えを実践してくれることを願い、特に校訓と銘打って発表されていません。しかし、現在に至るまで坂本校長先生の心は本校の伝統として、職員、生徒、同窓生に引き継がれています。